



## 目標8:働きがいも経済成長も

8 働きがいも  
経済成長も



昨今の社会生活では、バリアフリーなどが施され、障害者の生活に支障をきたすものを取り除きより良い社会生活を送れるように工夫されています。バリアフリー化は社会の仕事においても進んでいます。少し前になりますが、私の心に響いた『6/13 毎日新聞夕刊』に掲載された記事を紹介します。

ハイヤー会社の洗車係で勤務の稲葉さん(下記の写真の男性)は

三歳の頃に高熱のため耳が聞こえなくなっていました。本当は運転仕事をしたいと、ハイヤー運転手の井上さんに相談をしたところ、井上さんは、会社が導入しているウーバーのシステムを使えば彼も運転手ができるかもしれないと考えました。ウーバーは、配車の依頼、配送



先、精算まで客側がアプリで済ませるシステムです。これなら客との口頭会話が必須ではない為、彼も仕事ができると。また、ウーバーの設定に聴覚障害をもつ運転手のために設けられた機能もあり、客側にも聴覚障害のあるドライバーであることをアプリ上で、伝えられる機能もありました。これらウーバーの機能を駆使しハイヤー運転手の夢を実現した稲葉さん。聴覚障害があってもできるということを自分が示していきたい。「今は『聞こえないからできない』ではなく、聞こえる人と平等なチャンスがある中で仕事が出来ている。聴覚障害のある人がもっと活躍できる社会になってほしい」とのこと。

この記事を読み、ITの進歩とともに、将来的には、様々な職種へ便利な機能が取り入れられ、障害の有無に関わらず、全ての人が仕事への夢を実現すること可能となり、働きがいとともに経済活動の参加できる社会システムが構築されるのだと思いました。

## 《 Chat GPT 》って？

2022年11月に発表された対話型AIのChat GPT、登場から5日でユーザー数が100万人を突破。2023年1月にはユーザーが1億人を超え世界中から注目を集めています。右の本は、Chat GPTができること、今は未だできていないことなどが対話形式で書いてあります。本を読むのが苦手な方でも大丈夫!!

興味のある章から読んでみてください。

新刊本のコーナーに置いてあります。



## デジタル化による環境変化

これまで障害等で希望する仕事に就けなかった人も、可能な仕事が増え、今号で紹介した稲葉さんのようにハンディーのある方でもデジタル化の進化によって、就ける仕事が増えると思いました。しかし、その反面、社会が急激に過度のデジタル化が進んでしまったら、近い将来、生きづらくなってしまったり、逆に職を失ってしまったりしてしまうんじゃないかと、ちょっと不安な気持ちにもなりました。急速なデジタル化社会は、メリットはもちろん、デメリットも生じるかもしれないとふと考えてしまいました。

文責:1-3 N.Y